

中長期目標	多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な社会を創造する人財の育成を図る。	今年度の重点目標	1 主体的に進路を選択する力、そのために必要な学力の育成 2 課題を発見する力や課題解決に向かう力の育成 3 自分の価値を認めるとともにチームで課題にチャレンジする力の育成 4 働き方改革の推進
-------	--	----------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 () 月		
評価項目	評価の具体項目	現状(令和5年度)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的に進路を選択する力、そのために必要な学力の育成	進路指導の充実	・国公立大学現役合格者数：78名 ・難関私立大学現役合格者数：30名 ・大学入学共通テスト出願率：72.1% ・1日あたりの平均学習時間（6月～9月調査）： 1年次 88分 2年次 96分 3年次 229分	・国公立大学現役合格者数：60名以上 ・難関私立大学現役合格者数：20名以上 ・大学入学共通テスト出願率：80%	・総合型選抜及び学校推薦型選抜対策を学校全体の取組として行い、生徒が積極的にチャレンジできる環境をつくる。 ・大学入学共通テストの教科・科目の再編に対応し、生徒に対して適切な指導方針を示し、多くの生徒に受験を促す。			
	学習習慣の定着		・平日1日あたり学年プラス1時間の学習時間	・Chromebook等を活用した、生徒が主体的に取り組むことができる学習スタイルを確立する。 ・学級担任及び教科担任が生徒との対話を通して、学習に対する意識付けを行う。			
2 課題を発見する力や課題解決に向かう力の育成	みらいチャレンジ活動の充実・発展	・生徒がフィールドワーク、大学訪問、米子市のイベント等に参加し、地域に目を向け意見交換等を行う機会を獲得	・みらいチャレンジ活動アンケートにおける学習前と学習後の自己評価の肯定的変化：80%以上	・米子市との連携をさらに深め、探究的な要素を深めた質の高い活動とする。 ・地域貢献活動に係る情報を生徒に周知し、多くの生徒の参加を促す。			
	学校の魅力・特色の情報発信	・みらいチャレンジ活動アンケートにおける学習前と学習後の自己評価の肯定的変化：72.1% ・ホームページでのトップピクス更新回数（令和5年度）：153回	・ホームページを迅速かつ頻繁に更新することによる情報発信力の強化	・昨年同様、頻繁な更新に努めるが、特に部活動の活動状況や大会結果報告等の発信を各部で行う。			
	国際交流の推進	・オーストラリア語学研修に5名の生徒が参加 ・地域で働く社会人や留学生等との交流機会を設定	・国際交流活動を体験する生徒の増加	・外部人材を積極的に活用し、国際交流の機会を増やす。 ・オーストラリア語学研修を継続し、希望する生徒が参加できるようにする。			

令和6 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子西高等学校

中長期目標	多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な社会を創造する人財の育成を図る。	今年度の重点目標	1 主体的に進路を選択する力、そのために必要な学力の育成 2 課題を発見する力や課題解決に向かう力の育成 3 自分の価値を認めるとともにチームで課題にチャレンジする力の育成 4 働き方改革の推進
-------	--	----------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 () 月		
評価項目	評価の具体項目	現状(令和5年度)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 自分の価値を認めるとともにチームで課題にチャレンジする力の育成	基本的生活習慣の確立	・生徒学校評価アンケート「自分は価値ある人間だと思っている」：75.7% ・年間遅刻回数1回以下の生徒の割合：96.7% ・いじめの早期発見に努めた。 ・運動部全国・中国大会以上出場：31競技 ・文化部全国大会出場：6部門	・生徒学校評価アンケート「自分は価値ある人間だと思っている」：80%以上 ・年間遅刻回数1回以下の生徒の割合：90%以上	・いじめの早期発見に努め、職員間で情報共有し、迅速に対応する。 ・本校が定める「生徒指導に係る諸問題の未然防止及び対応指針」に基づき、生徒が自己存在感を感受できる生徒指導・支援を行う。 ・翠風祭等の学校行事や生徒会活動をより生徒主体に変えていく。			
	部活動の奨励		・生徒が上位大会出場を目指しながら、学業との両立を図りバランス良く活動	・計画的に適切な活動日及び活動時間を設定し、顧問・生徒ともにメリハリをつけた活動を行う。			
4 働き方改革の推進	時間外業務の削減	・時間外業務の削減は達成できていない状況だが、業務改善について衛生委員会等で検討	・一人あたりの時間外業務時間の削減：月45時間以内、年間360時間以内を達成 ・ストレスチェックにおいて、各項目のストレス値の低下	・管理職はもとより、全職員が同僚性を発揮して、学校全体で業務の工夫・改善に対する意識改革を図る。			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]